

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	5年 外国語(9月) Here We Go! 5 Unit 4 "What time do you get up?" 8h扱
④ 学習評価の改善と指導の充実	京都市立羽束師小学校5年担任 本郷 賢

評価と指導の改善【よりよい自分を目指して】～振り返りカードを中心に～

1 評価規準の共通理解

◎話すこと [やり取り]	思①互いのことを知るために、休日の過ごし方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、家の手伝いや起床と就寝の時刻などを尋ね合っている。 思②互いのことを知るために、休日の過ごし方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、家の手伝いや起床と就寝の時刻などを尋ね合おうとしている。
-----------------	---

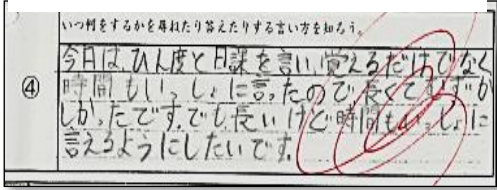
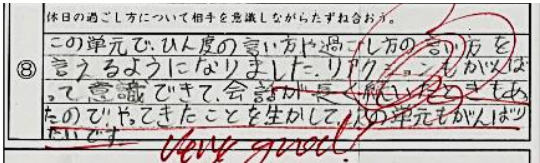
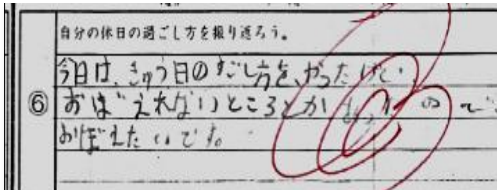
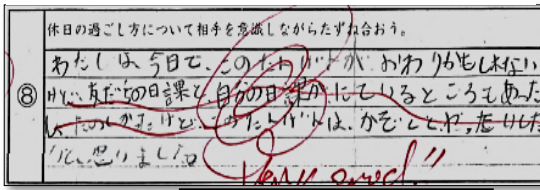
学年で、単元構想の段階で市の「評価スタンダード」をもとに「互いのことを知る

ために」(思・判・表)(態度)のより具体的な姿を明確にし、目指す子ども像を学年で共通理解をした。

本校では今年度より全教科等で「自分めあて」(1単位時間の中で自分が特に意識してがんばること)の取組を行っている。外国語科では「全体めあて」の後に、「自分めあて」を立てて学習に臨んでいる。「自分めあて」を決め、ペアと交流をしてから授業に入っていた。「私はまだ文で言えないので、文で言えるようにしたい」「会話が長く続くような反応をがんばりたい」等である。

授業の終わりには、その「自分めあて」に沿った振り返りを毎時間記入しており、うまくいったところやうまくいかなかったところ、どんな姿になりたいのか、次の時間に何をがんばりたいのかなど、よりよい自分を目指し、粘り強さと自己調整力を意識して振り返りを記述できるようになってきている。ある児童は単元終末を振り返り、「この単元で自分の日課の過ごし方の時間が言えるようになっていきました。いろいろ交流して、友達の過ごし方を英語で話して知ることもできまし、リアクションができるようになったと思いました。友だちにも自分で工夫して伝えたことが伝わったみたいなので、困った時に自分で工夫して伝えるやり方もよりできるようになりたいです。」と記述した。このように学びを振り返ることができる児童が増えてきている。

2 実際の評価と単元内での手立て：話すこと(やり取り)の評価(思・判・表)(態度)

	単元途中	終末までに行った手立て	単元終末
児童あ	<p>(第4時)Talkの場面で、頻度と時間を表す表現を友達との過ごし方の違いを意識して、話す内容を選択し表現している。また、次へのめあてを考え、自己調整をしている。</p>  <p style="text-align: center;">思判表：b</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールトークの際に文での表現を意識できるように、指導者の発話数をさらに増やした。 ・本児に意図的に指名し、文で表現できるように指導した。 ・相手のことをより詳しく聞く表現について共有し、自分のことをより相手に伝えるような順番を考える時間を多くとるようにした。 	<p>(第8時)Talkの際に、文で表現できており、自分のことがより伝わるように話す内容の順番を相手に応じて変えながら発話していた。また、会話が長く続くように内容を考え、既習事項を用いながら話そうとしており、実際に話していた。</p>  <p style="text-align: center;">思判表：A 態度：A</p>
児童い	<p>(第6時)Talk 場面で、頻度と時間を表す表現を単語のみの会話をしていった。また、話す内容も黒板に例示した日課と時間のみであった。</p>  <p style="text-align: center;">思判表：c</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールトークやデモンストレーションの際に本児を意図的に指名し、文で表現できるように指導した。 ・コミュニケーションの際に、発話内容が自分の日課について話せるように、意図的に本児と関わりながら会話量を増やした。 	<p>(第8時)友だちの援助を受けながら、何とか自分の日課を表現しており、自分の日課を伝え、友達との違いを聞き取り、内容を比べることができるなど自己調整がうまくできていた。また単元を通してあきらめず、文で会話をしようとしていた。</p>  <p style="text-align: center;">思判表：B 態度：B</p>

単元計画作成の際、学習評価について大切なことは、目標を具体化した姿を学年や学校で共通理解を図った上で、子供と共有しておくことだと考えます。本校では、全教科で単元目標及び各時間の目標を踏まえて、「自分めあて」をもって授業に臨むようにしています。そうすることで、子供がより主体的に学習に取り組むとともに、全教科で取り組むことで、子供たちには、それが当たり前になりますね。また、本実践に記されていることからだけでは判断が付きにくいことが多いのですが、記されていることから、本郷教諭が第4時や第6時で子供を見取った後、その見取りの結果を生かして、それ以降丁寧な指導を行い、単元終末には、子供たちを目標をおおむね満足、あるいは、十分満足できる状況にしていることが分かります。まさに、指導と評価の一体化といえます。このようなことを繰り返す中で、本郷教諭は指導力を改善されていることがうかがえます。

(文部科学省 視学官 直山木綿子)